

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	マカロンにしの台		
○保護者評価実施期間	2026年2月12日		～ 2026年3月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2026年3月1日		～ 2026年3月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設の構造	・特徴的な広いフロアを使った、大きな動きの出来る活動も積極的に盛り込んでいる。 ・活動や状況に応じて部屋を使い分けたり、パーティションを使用したりして課題に集中しやすくする工夫をしている。	・より多様な活動を計画し、今後もパーティションや遊具など必要なものを用意し活動しやすい環境を整える。
2	保護者との密なコミュニケーション	・面談や送迎での引き渡し時も含めて、学校や家など、スタッフが見えない部分の様子も共有し、放デイの様子と合わせて計画案等に落とし込んでいる。	・細かい変化に気づき保護者に伝達するためにも、日頃からのスタッフ同士の情報共有を確実にし、最新の状態にアップデートしていく。
3			・細かい変化に気づき保護者に伝達するためにも、日頃からのスタッフ同士の情報共有を最新の状態にアップデートしていく必要がある。また、今出来ること、これから伸ばしていくべきところなど多くのスタッフが関わり、たくさんの視点で捉えていくことが必要。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域連携	・災害等があった時のためなど、地域に対して開けた存在であるべきではあるが、地域住民を交えた活動を企画することは現状出来ていない。また、地域の児童クラブなど同世代の子たちとの関わりの機会に関しても現状具体的な取り組みには至っていない。	・会社としての地域に対する立ち位置の検討機会を作り、まずは地域に向けてどういった施設づくり、関係性づくりをしていくかの方向性を決めていくことが必要となる。
2	災害等の緊急時対応	・マニュアルは作成しているが、保護者への共有が十分に出来ていない。年に2回利用者と一緒に避難訓練と別にスタッフ間でも会議の機会を設けているが、常に新しい情報にアップデートしスタッフ間で共有する必要がある。	・様々な緊急事態を想定し、実際に行動できるよう訓練を行う。積極的に情報収集を行い、必要に応じて保護者や利用者への情報提供も行えるようになるとよりよいのではないかと。
3	第三者による評価体制	・第三者による評価をしてもらう機会が少ない。	・普段勤務しているスタッフだけでは、現状の支援が当たり前という認識になってしまうことが多いため、他事業所との交流や外部研修を通して、支援力や意識の向上に役立てる。